村山渉
Wataru Murayama
デザート・コーラル
3

BLADE COMICS

Desert Coral デザート・コーラル 3

村山 渉
Wataru Murayama

Mag GARDEN

9784901926706

ISBN4-901926-70-5

C9979 ¥552E (0)

1929979005528

雑誌53930-55
定価：本体552円＋税
マッグガーデン

Comment

Wataru Murayama

村山 渉

最近はおいしいものを食べさせてもらっています。
よく旅行にも行きます。
劇を見に行ったり、神社にお参りに行ったり、笛を吹いたり、漫画を読んだり、描いたりして過ごしています。

村山 渉

Wataru Murayama

デザート・コーラル

3

デザート・コーラル 3

BLADE COMICS

村山 渉
Wataru Murayama

Mag GARDEN

村山渉
Wataru Murayama
デザート・コーラル
3

CONTENTS

#11 REAL? — 3
#12 SANDSTORM — 37
#13 TOGETHER — 71
#14 PARTY — 105
#15 GOD — 141

保健室
……！
…ん…
ナオトくん

#11 REAL?

やっと起きたのねナオトくん
……
もう授業終わっちゃったよ
もう放課後なんだから
……ナオトくんホントに…
ああそうか…たしか屋上で貧血かなんかで…
心配かけてごめんなちさと
起きるまで待っててくれてありがとう
心配した
急に倒れて…
え…
俺…
……
……あれ？
……
大丈夫？
ああ
うん……
あれ？
なんだかとても…ひさしぶりなカンジがするんだちさとと話すのか

なに言ってるの
毎日 学校で会ってる
じゃない
いつもこーやって
話してるよ
小さいころ
から
ずっと…
ねえ
ナオくん
小さいころから
ずっといっしょ
だったよね
私たち…
きっと
これからも
ずっと…
……
ずっと…

夢を見ていたんだ長い夢だった
すごい長い夢で…
なんか…大変な目とかいろいろあったんだけど…
……夢…か
昔はよくみた夢のこと話してくれたね
まったく思い出せない
夢なんて…
すぐ忘れちゃうものだよ
早く帰ろ

花(はな)あ…

花を見せたいって
思ってたんだ
あいつに…
あいつ？
あいつは
花なんて
見たこと
ねーだろ
からな
そう
あいつ…
誰だっけ…
ガーアッ
ね
花なら
あたし
いいところ
知ってるよ
♪
ついてきて
！
君に
見せてあげよう

未来の記憶
おおい
どんっ
ちさと？
ちさと！

はあ
はあ
はあ
かんだ この苦しみ…ちょっと走っただけなのに
はあ
ちさとは……？
!!?
す
砂…!?
ズズズ
ギャー…
なんで…
し沈…
ズズズ
うそッ
ちょちょっと待…ッ

苦しい…!!
そうだ…
あいつが苦しんで
いるんだ…
俺が
助けに
いかなきゃ…!!
あいつって
誰なんだ…!?
幻覚…!?
は…?

さて次は ちょっと前の 過去の記憶

ナイ
な なんだよ…！
どーしたってんだ!?
いきなり集団凶暴化か!?
なんかにとりつかれたのか!?
みんな…!?
もっと速く走んないと追いつかれちゃうよ!!
!!
…ってあれ？これどこかで…？
ほらほら前！前からも来るよ♪
誰だ！

そんなことより早く逃げないとお兄ちゃん！
カルンっ
なんだあの女の子
あのなあ！あのときは逃げるしかなかったけど
あのとき…っていつだ!?
今の俺は戦えるんだ!!
た戦う!?
くそ混乱してる!!
見てろ!!
なにやってんだ俺!?
剣！
だから俺は!!
ただあいつに花を…

だから
あいつって
誰なんだッ
おおお
おおお!!
ナオト!
あ…
すごいキレーな花!
これはなんていう
花なんだ!?
ナオト!
ナオト!

これは だいぶ昔…深い記憶……

なんで…
なんで忘れて
たんだろう
こんな大切な
大切な約束

これはまだ
長い夢の続き……
MAZDO DEMI

いいかげん
目覚めなきゃ…
けど俺…
まだ…
ガタン
ゴトン
…んん
え…
ガタッ
あれ!?
あれ?
じゃない…
また寝ぼけて。
あいかわらず
よくねるね…
昔っから
ナオトくんは
電車の
中…?

ねえ
……
今度はどんな冒険してたのかな？夢の中で…
新宿
新宿ー
ピーン
それじゃまたね
！
お俺も降り…

君はまだだよ
ちょ
ちょっと待ッ…
!

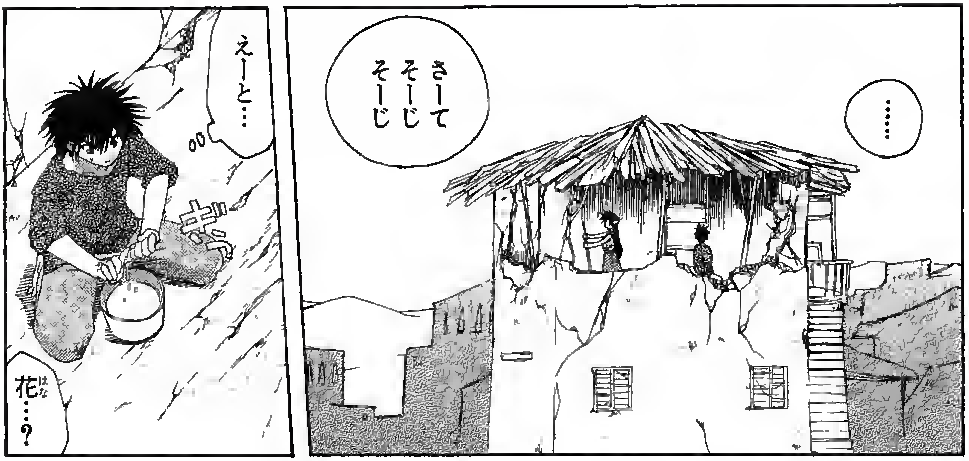
おいッ
おまえッ
ちさとじゃ
ないだろ
さっきの
やつも…！
どっかで見た
ことあるぞ
その目!!
こらッ
今までの夢は
おまえが見さ
せてたんだな!!?
あ、ちさとだ…
またお話
きかせてね
オルゴスの
お話
バイバイ
またね
ナオくん

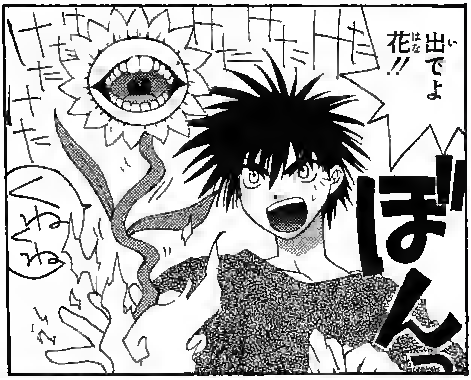
ぱちり
ラッまぶしン
ガバ
もぞもぞ
ようやく目が覚めたのか
よおナオト
おはようナオト！
ルシア…
……？
…ちがう

君は……

いいかげん起きろッってんのよこのガキャー——
だッ!!?
そこで寝てられるとすごい邪魔なの
一年に一回くらいはそうじしろっていうあんたの提案をきいてこうしてやってんのよ!?
この私がよ!?
……
……

今すごく重要っぽい事思い出してたような気がするんですケド……
花がどーとか…
忘れた…
それ以外全て忘れた…


……
さーて
そーじ
そーじ
えーと…
花…？


出でよ
花!!
ぽんっ

なにそれ
手品？
あはは…
まあね
※ナオトの能力
自分の頭で
イメージする物
を実体化させ
られる
俺の中の
花のイメージは
こんなか…
ぽんっ

こらー
二人とも
遊んで
ないで
働けー
あたしは
遊んでない
わよ
はーい…

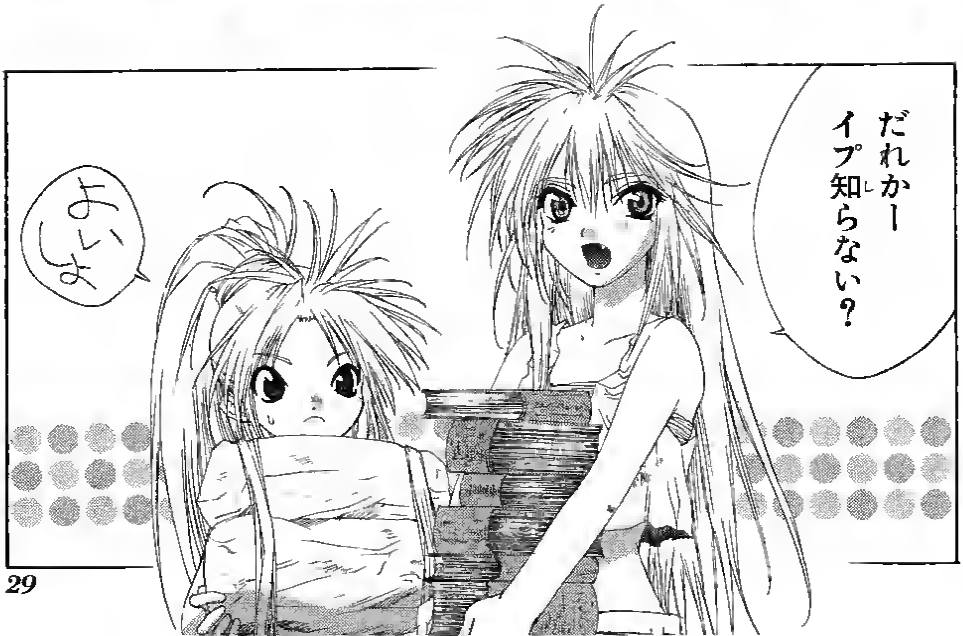
おーう
ぴちゃ
ふいてもふいても
あたらしいのが
でてくるが
……それにしても
変な夢
だった…

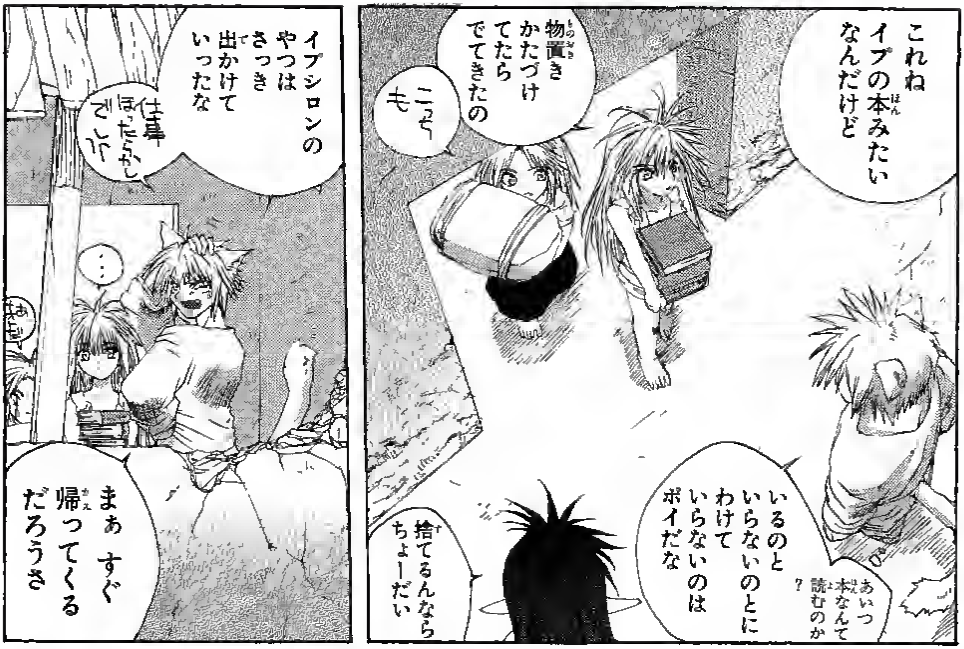
夢……

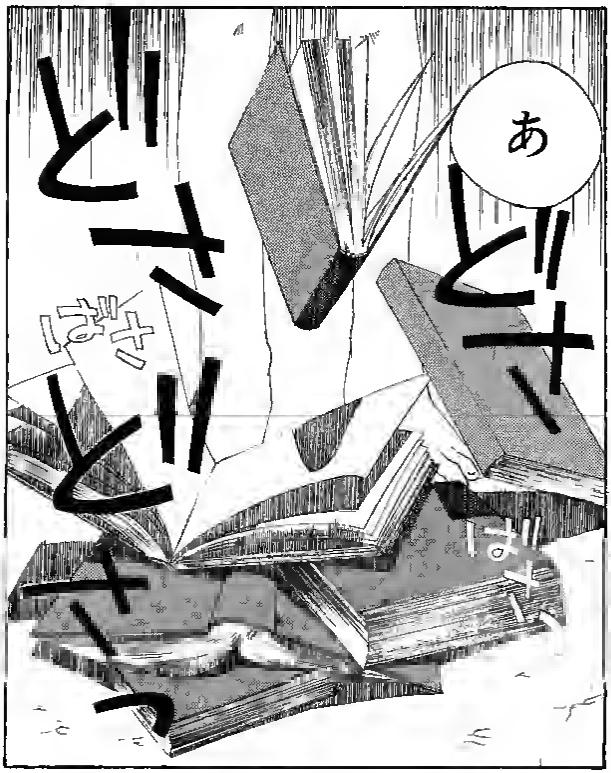
これはまだ…
長い夢の続き…

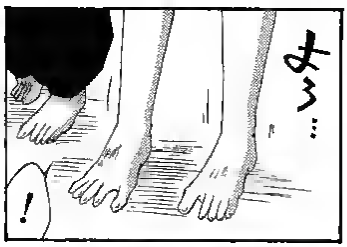
ナオト！
……

かわいそうに…
夢と現の狭間に
落ちたか
時空竜にもてあそばれたか
それとも……


だれかーイプ知らない？
よいしょ


これね
イブの本みたい
なんだけど
物置き
かたづけ
てたら
でてきたの
こっち
も
あいつ本なんて読むのか？
いるのと
いらないのとに
わけて
いらないのは
ポイだな
捨てるんならちょーだい
イプシロンの
やつは
さっき
出かけて
いったな
仕事ほったらかしでいいの
…
まぁ
すぐ
帰ってくる
だろうさ


あ
どさっ
どさっ
ばさ


よう…
！

まだ
めまい…

どん
！

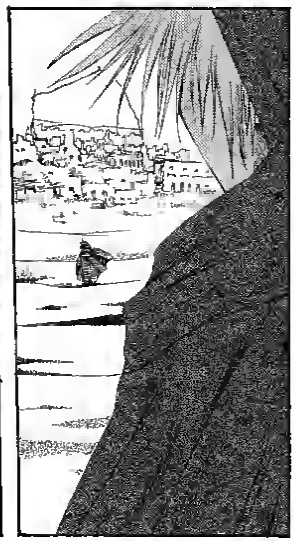
……
ルシア？
大丈夫かよ
ルシア？
……
ハッ
うん…
大丈夫
……
……？
なにかしら
これ？

……花
押し花だ……
オシバナ？
私の髪と
同じ色
すごくすごく なつかしい記憶…
この花の名はねぇ…
くすくす

なんだよ！
もったいぶって
ないで教えろ！
ナオト！
君と同じ
名の花を持って
きたんだ オレ
偶然かもしれない
けど 髪の色も
同じだろ！
君の花さ

これ…
蓮の花…
そうだ…
おぼろげだけど
思い出した
昔 小さいころも
このオルゴスの世界に
いたんだ 俺は
ロータス…
イプシロンと
ルシアの兄貴
ロータスと…

おまえが死んでから何年たつかな…
ロータス…



…よし
この場所が
わかったな
ロータスに
呼ばれたか
イプシロン
思い出した
んだ…
でもまだ
完全じゃない
きき たい事が
あるんだ
ルシアと…
ロータスに
ついて…

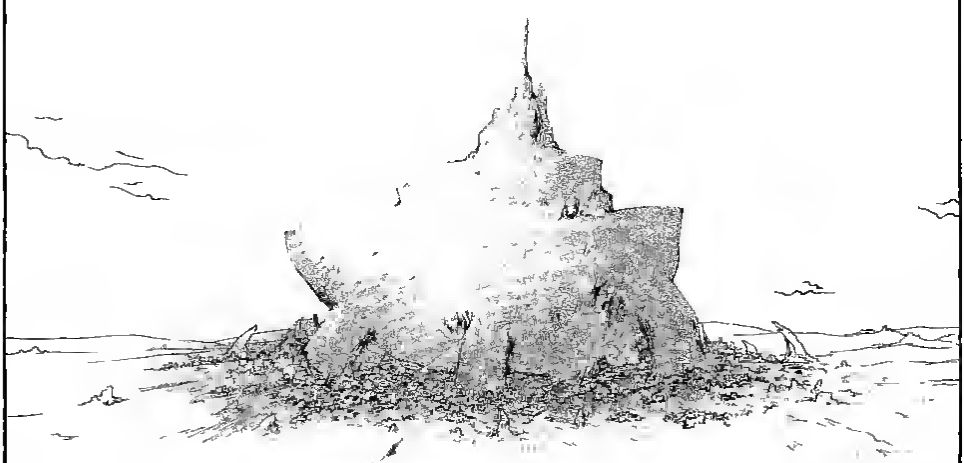
……
断る

おい◎
ここまできて
それか!

今 俺は
このオルゴス最下層地区で
ルシアたちと生活している

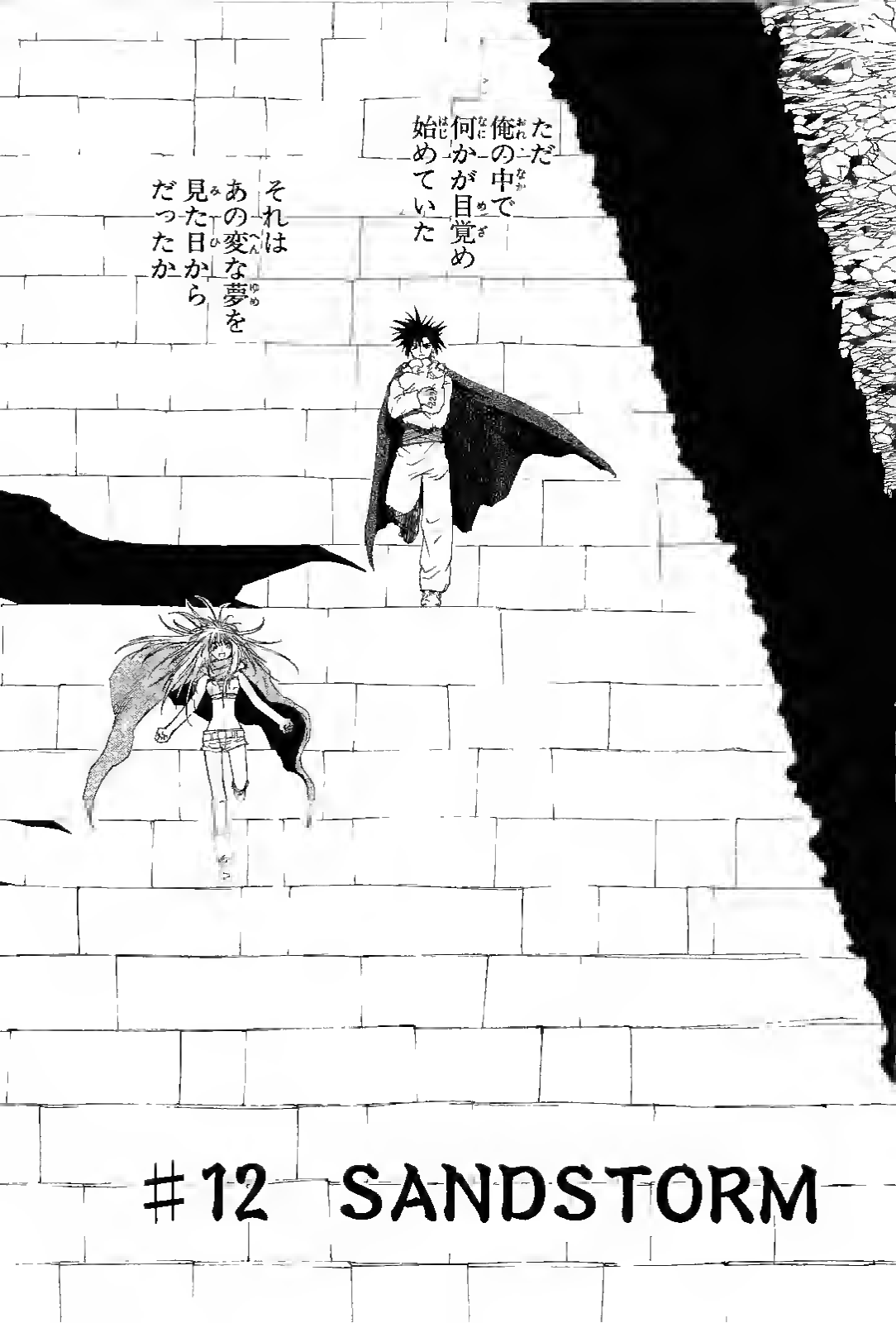
デザートコーラルという名の
俺の居場所は
とても心地よく

ここに来てから
何日たつのかすら
もう忘れてしまった



ただ
俺の中で
何かが目覚め
始めていた

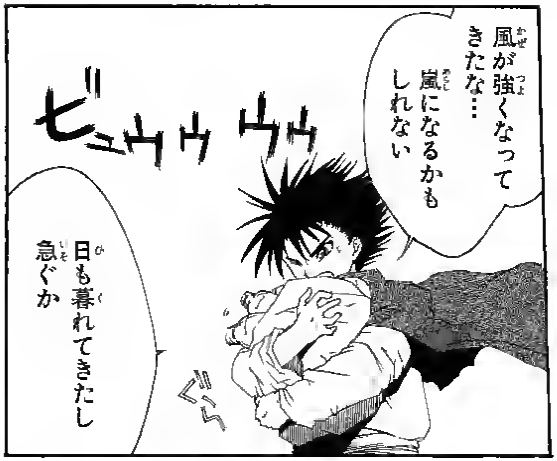
それは
あの変な夢を
見た日から
だったか

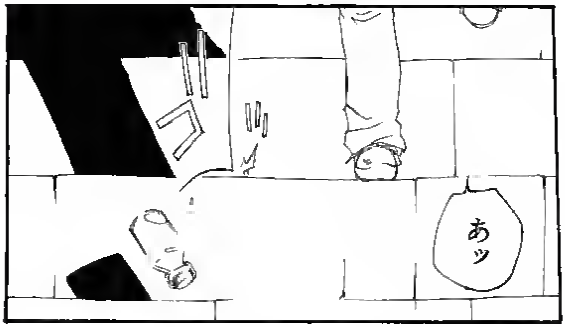


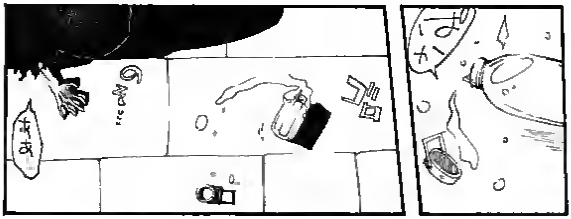
#12 SANDSTORM

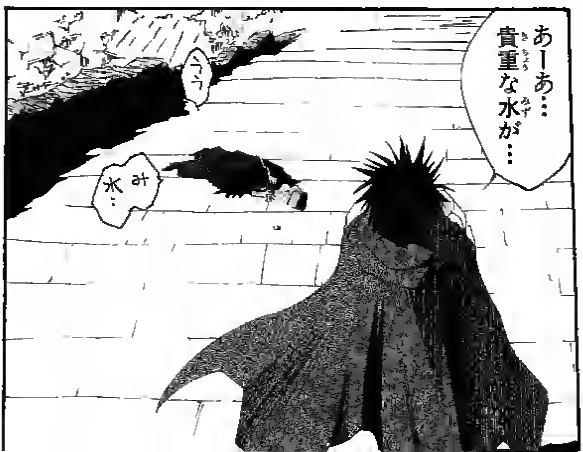
炎から力を
得た日からだったか

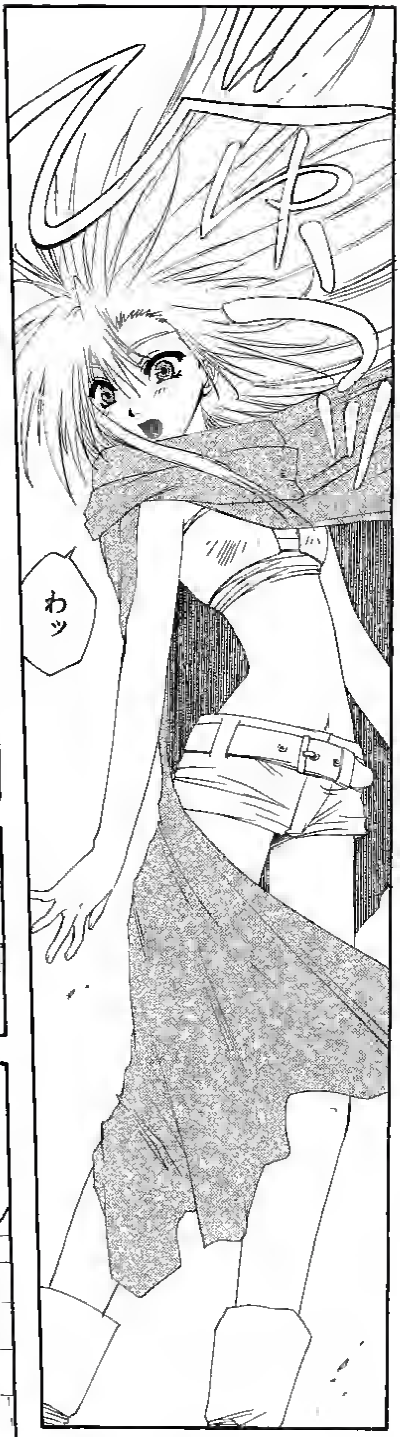
ルシアが俺をこの世界に
召喚した日からだったか…


ビュウウウウ
風が強くなってきたな…
嵐になるかもしれない
日も暮れてきたし急ぐか

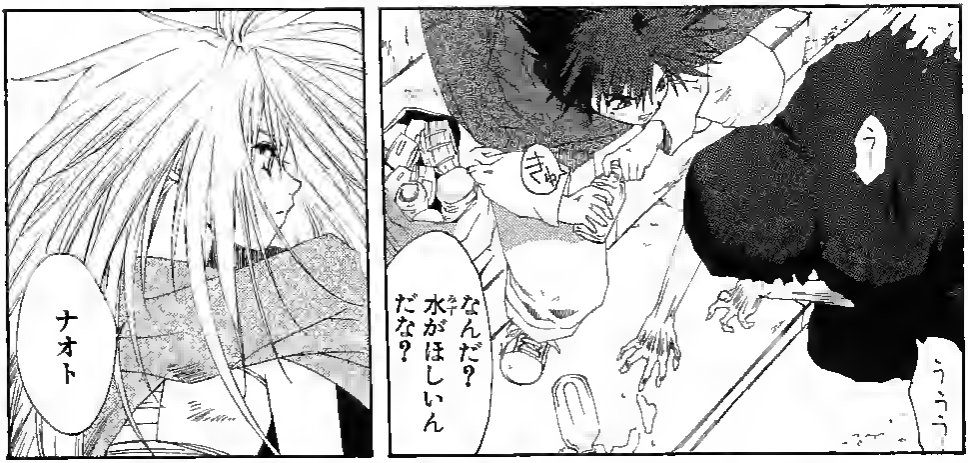

あッ


ゴロ
ゴロ
あぁ
ぽか


あーあ…貴重な水が…
ごくごく
水…


わッ

水…
あぅ…
おいおいおい
大丈夫か!?
……


う
ぎゅ
なんだ?
水がほしいんだな?
うぅう
ナオト

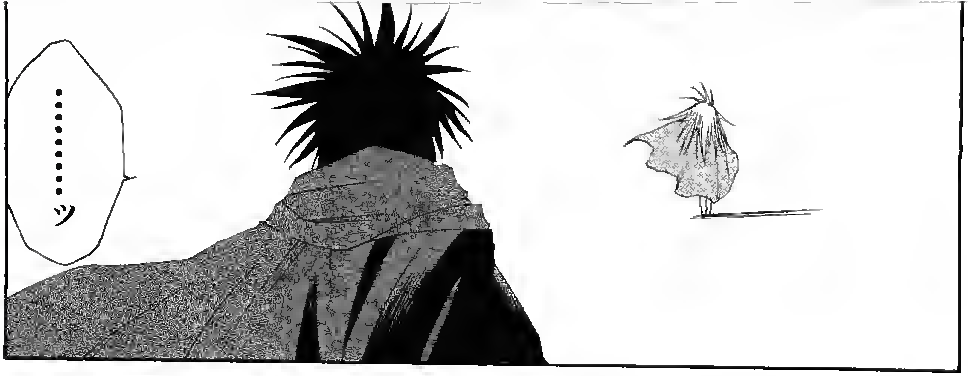
なあルシア
この人すごい
苦しんでる
水…
大事な水だけど
…この場合
まあ…しょうが
ないよな?

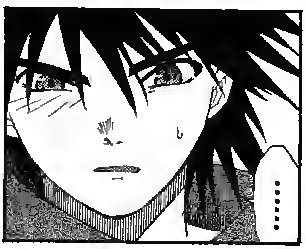
ダメだよ

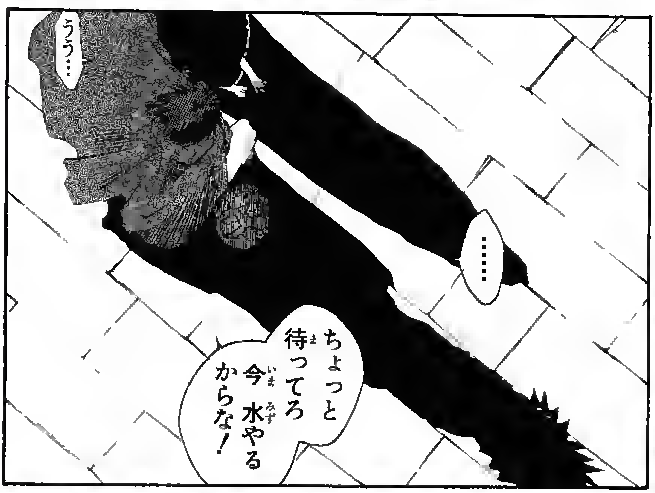
…え…？

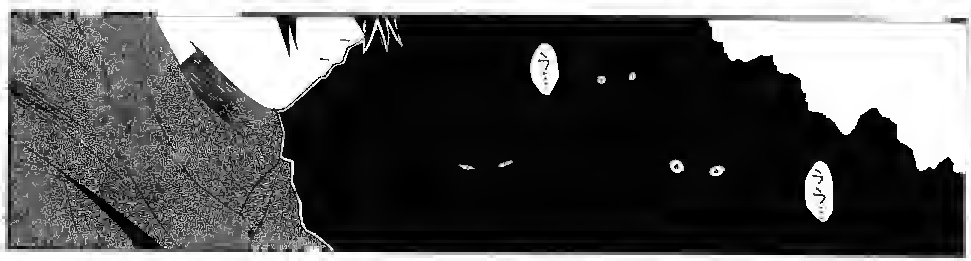
その人は砂に還ろうとしてる
私たちサンドダストはいずれ砂に還らなければならないんだ
邪魔してはいけない…

な…
なに言ってんだよ
このままじゃこの人…
このままじゃこの人…ッ
…死…ッ



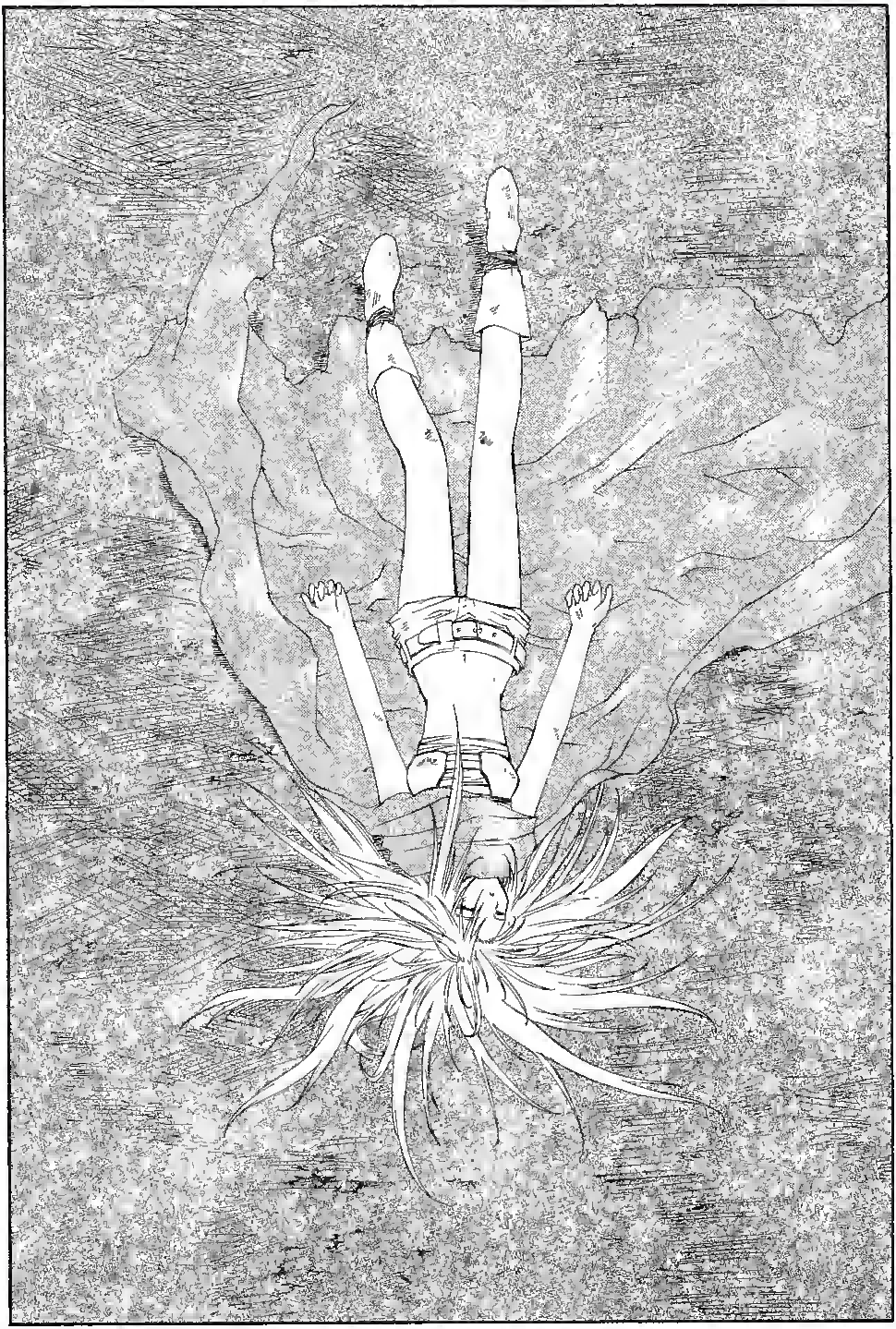






それとも
それは

常に視界の隅に
ひそむ
死に気づいたとき
からだったか…



あ…
また倒れちゃったんだ私…
ぼ…

そんなとこで寝てると砂まみれになっちゃよ♪

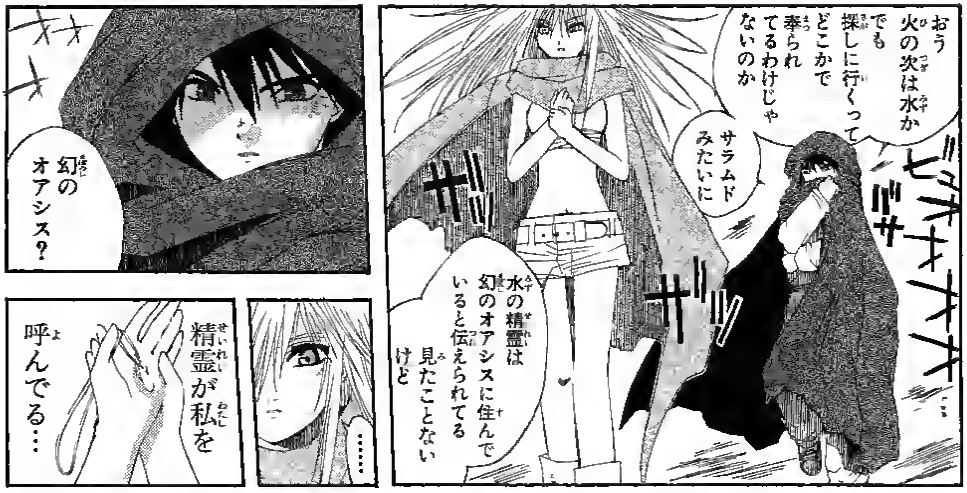
だ…れ…？

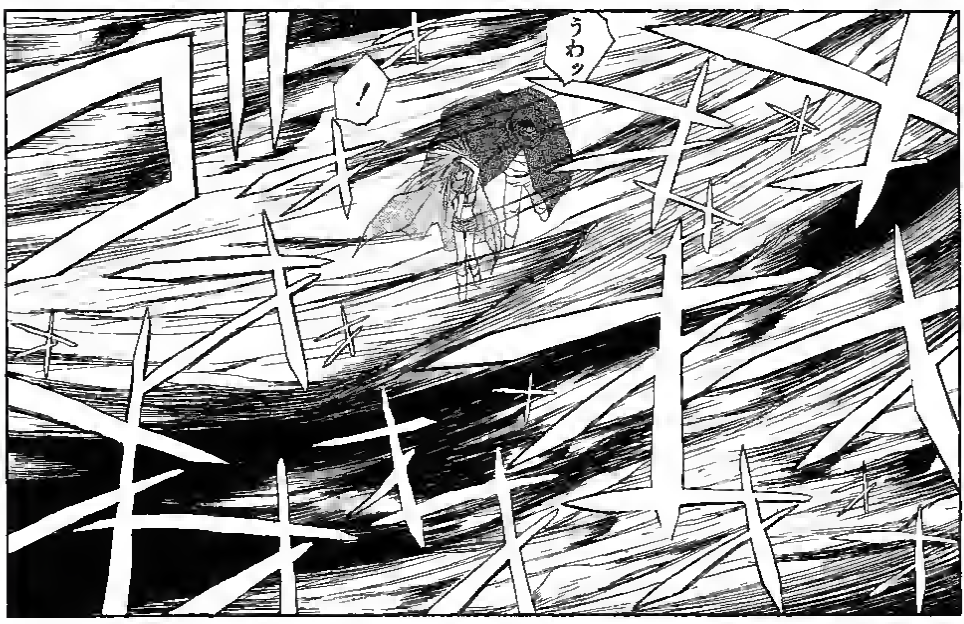
……

なに寝ころんでんだ道のまん中で！
非常識な！
先にスタスタ行ったと思ったらこんなとこで…

ヒュー
オオオオ
あ
ナオト！
ほら
手！
もー
しょうがない
やつだな
砂まみれだぞ
早く帰ろう
もう嵐がくる
！
？
どうしたんだ
それ？
拾ったのか？
ううん
水の精霊が
あなたを
呼んでる

このペンダントを身につけておいて目印になるから
そのときがくれば精霊が教えてくれる
ああ……
ぼ
そのときが近いんだ……
あのね
僕を捜してくれたお礼♪
ナオト！今度は水の精霊を探しに行くことに決めた！
きゅ
思い出したあの子がくれたんだ…このペンダント


おう
火の次は水か
でも
探しに行くって
どこかで
拳られ
てるわけじゃ
ないのか
サラムド
みたいに
ビシャ
水の精霊は
幻のオアシスに住んで
いると伝えられてる
見たことない
けど
……
精霊が私を
呼んでる…
幻の
オアシス？

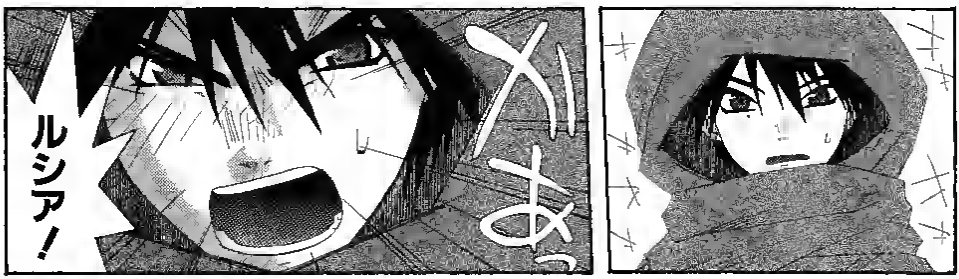

うわッ
！

なあ
とにかく急いで
帰ろう！
風が本格的に
やばくなってきた
ハハハ
話は帰って
から…
その幻の
オアシス
は…

砂嵐の中
出現するんだ

ルシア
まさか…

うん
行くよ
今から!


ルシア!

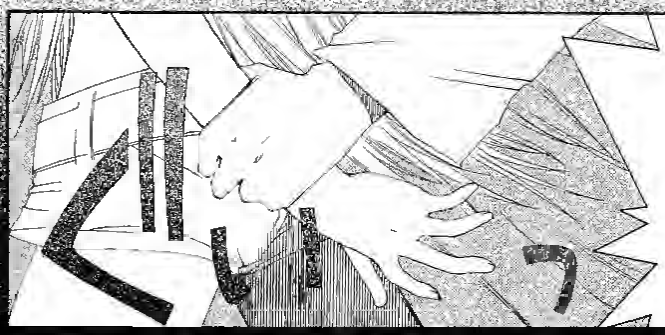
おい ちょっと
待てよ!!
勝手すぎだ
ルシアは…!!
こんな砂嵐で
何探そうってんだ
よ!!
俺は早く帰り
たいんだよ!
荷物も多いし…!
まだ俺は
下僕扱いか!?
砂まみれになる
なんて俺はまっぴら
ごめんだからな!!
だいたい
いつもいつも
俺はおまえに
ふりまわされて…!

なんでおまえみたいな勝手なやつのこと

イプシロンやレビナスユーロは…！

おい！聞いてんのか!?

くそ この風の音で声が消されてしまうんだ



だから!!ちょっと待てって!!

ぎゅっ

え……!?

ナォト…

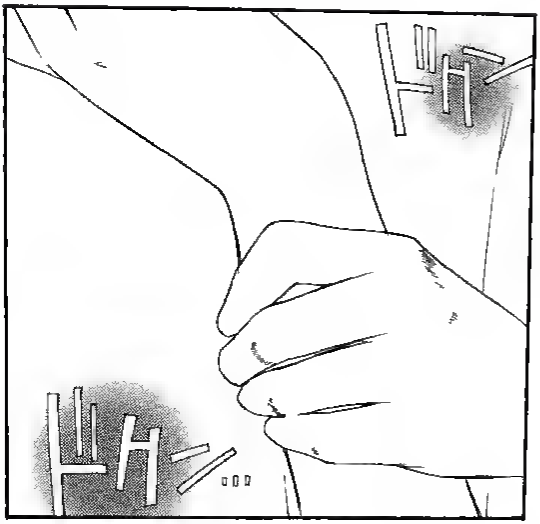
ゴォォォ

それともそれは――

常に視界の隅にひそむ――――…

ああ
たしか前にもあったんだ
あの時と同じ…
こんなカンジで
ルシアを抱きとめたんだ

そしてこう言うんだ
ルシアは――…



…あたたかい

ナオト…

これからも
ずっと――

ああ
どこかで
リピートされてる
よくあることなんだ
夢の世界では。

…そのくせいつも
大事なとこで
目が覚める

……

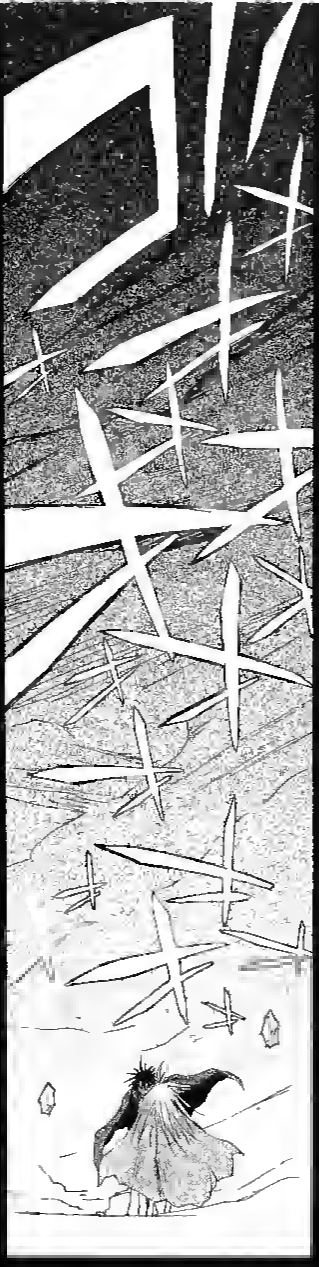
知ってる
この世界が
夢じゃないこと

前と同じもんか
俺だって前とは
ちがうんだ!!

力を手に入れた

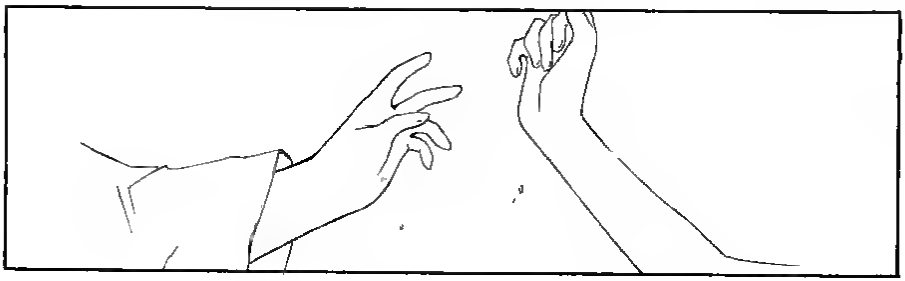
だからルシア!!

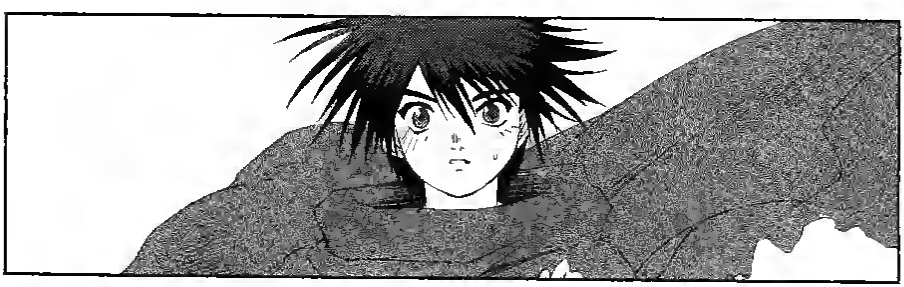
これからは俺が!!
ルシアを守ってやるから!!

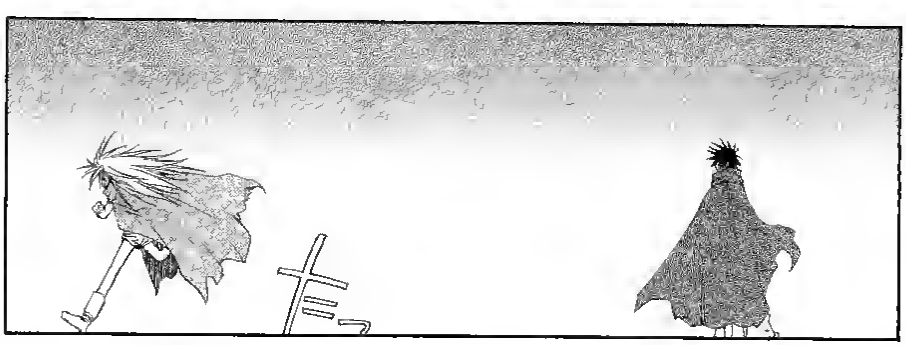


ああ 神サマ
たのむから 一瞬でいいから
この風をやませてくれ…!!

私(わたし)は
ナオトが
好(す)き

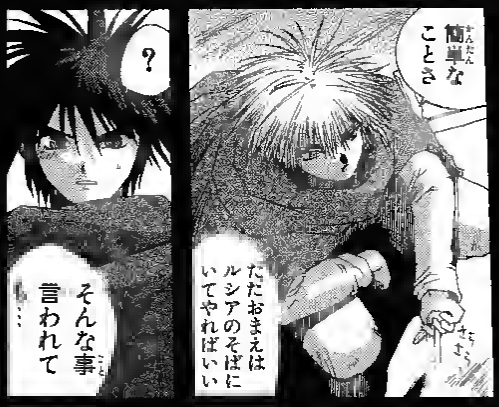




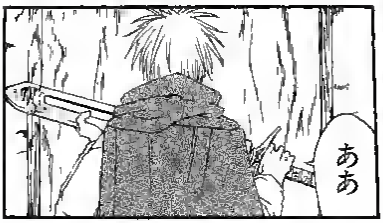


……

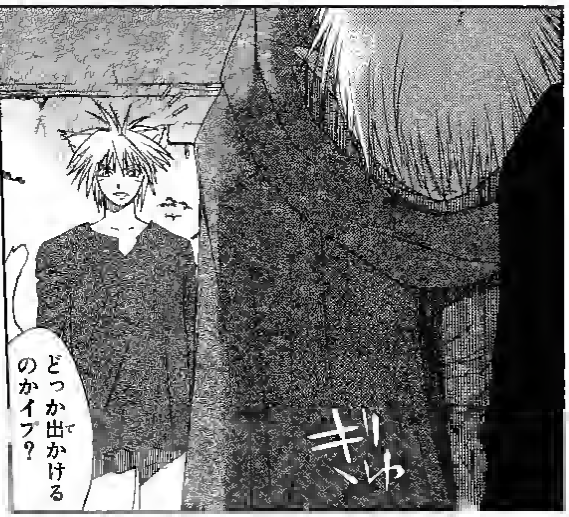
おまえが
過去を
思い出した
としても
何か力を
手に入れた
としても
俺が何か
ここで語った
としても
何も変わる
ことはない


簡単な
ことさ
ただおまえは
ルシアのそばに
いてやればいい
？
そんな事
言われて…

ごちゃごちゃ
考えるな
ただ
おまえは
ルシアの手を
離さないで
いればいいんだ
それと
もうひとつ
…
カミューと
…
…いや
カミューには
気をつけた方
がいい…
カミュー
と…？
ザザ


ああ

外はすんごい嵐だぞ


どっか出かけるのかイプ？
キィ

カミューは？

ルシアも帰ってこないし…みんなどこ行ったんだ？
……
ユーロはルシア捜しに行っちゃったんだけど…

知ってる

ずっと出かけているが…
……
……まさか

…イプシロン俺に刀を貸してくれないか？

はあっ
はあっ
はあっ…
水の精霊が
私を呼んでる…
きゅ
このペンダントが導いてくれる…！
くらっ
…でもその前に…！
あ…
!!

でもその前に……!!
私にはやらなきゃいけないことがあるんだ…!!
はうッ
ドサッ
ビュウウウ
ケホ
ケホ
う……
…私も砂に還る日がくろ
ふんづけてごめんね…ッ
そのときがもう近いんだ

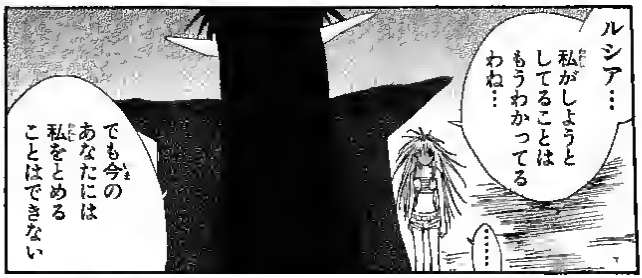
はあっ
気配でわかる…こっちだ!!
はあっ
!
え…?
ドドドド
わッ!?
…?
ザッ
風がやんだ…!

竜…？

スルズズ…
よーこそ
私の別荘へ
あら
召喚獣少年は
一緒じゃないのね
残念…
カミュー!
まあ
ゆっくり
してって♡
なんにもない
とこだけど

今日こそ決着つける!!
カミュー!!
ホーッホッホッホッ!
あとで泣いたって知らないわよ!?

……


ルシア…
私がしようとしてることはもうわかってるわね…
……
でも今のあなたには私をとめることはできない

たとえルカヴィフェイトの力を使ってもね
今日で最後よ……

ナオトは殺させない

私たち
サンドダスト
は
いずれ砂に
還らなければ
ならないんだ…
すごく…
嫌な
予感がする
俺の中で何かが
目覚め始めて
いた…
…
俺の中の奥
ずっと深いところから
くるそれは
この夢の終わりが
もう近いことを
告げていた

#13 TOGETHER

さて
何から説明
しようかしらね

あんたのその特殊な種族ルカヴィフェイトのこと
あんたが召喚した少年のことその少年を殺さなきゃいけないこと
ちょっと残酷な話になるかもしれないけど黙って聞いていて欲しいの
あんたたって何も知らないでただ死ぬのは嫌でしょ？

ファイヤーボール
は…

こッ
バリア!
キオ
こら話聞け
イィィィィ
あのな
いいわッ勝手にしゃべるから!!
トカンッ
今まで出番なかった分ね!!
私以外解説役いないんだから聞きなさいってのよ!!
だいたいねぇ!! あんたその炎の力いつのまにそこまで使いこなせてるのよ!?
ずるいわよ!?
ああ…そういえばロータスもこんなすごい術の才能持ってたっけね…
はあっ
はあっ

はあ…
でも私のバリアは破れないわ!!
ホーッホッホッホッホッ
……
ドクン
ドクン
ルカヴィフェイトの力を…
!
…
だから!
とにかく話を聞け!!

無駄に力を使って死に急ぐこともないでしょう?
そもそもルカヴィフェイトは短命な種族なのせいぜい長生きして20歳くらいまで生きられるかしらね…
そして短い命はその種族の特別な力を使えば使うほどさらに短くなる
もう…立っているのもやっとのはず
その特別な力あんたは今も消耗し続けてる
なにに使ってるのか…

あんたが
召喚した少年ナオトを
この世界に実体をもって
存在させ続けること

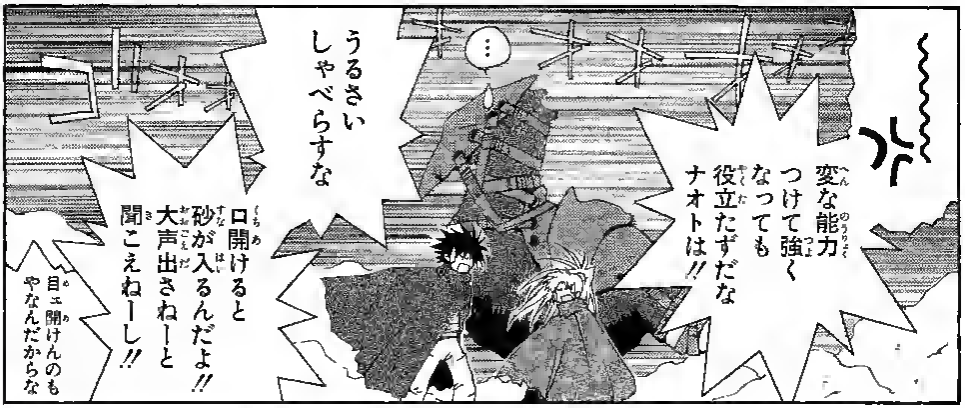
あんたのやった
召喚はまったく
最悪な失敗
だったのよ
未熟な召喚士は
自ら呼び出した
召喚獣に喰われて
死ぬ
最初のころは
まだ良かった…
あの召喚獣少年は
無力だったから
あんたの力の消耗も
そんな激しくはなかった
でも今は
ちがう…

ナオトの存在が
ルシア
あんたの命を削ってるのよ
あんたはもうすぐこの世界から消えるわ
サンドダストとしてこの果てしない砂漠とひとつになる
そのしなやかな体もその純粋な魂も
砂にとけて風にまぎれて
やがて全て消えてなくなってしまう…
今すぐナオトを消さないと…
もう次の瞬間にでも死が…

そんなことは
もう
知っている

早くあの二人見つけなきゃ……!!
すごく嫌な予感がする…
最近みんな少し変だ…特にルシアそれにカミューはなんか隠してるみたいだし…
!
人影……!!
ナオト?
ルシア?
ナオト!!
ぐらっ
わッ
どさっ
まずッ!!
ユ…
ユーロ!?
!?

ばっ
ばか
ナオト!
ばっ
ひとりで
なにやって
んのさ
こんな
とこで!?
……
ルシア
は!?
ぐ
……


つ
変な能力
つけて強く
なっても
役立たずだな
ナオトは!!
…
うるさい
しゃべらすな
口開けると
砂が入るんだよ!!
大声出さねーと
聞こえねーし!!
目ェ開けんのも
やなんだからな

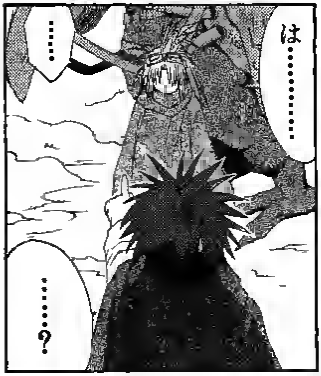
ばか
ナオト!!
ルシア
どこ!?
……

ガシっ
俺はもうダメだ…
ルシアならついさっきあっちに走ってったよまだそんな遠くまでは行ってないさきっと
……
最近よく幻覚とか見るし…
ぼそぼそ
は？
「ナオトのことが好き」
…ってあれも幻覚に違いない!!
俺はダメだ
なにしてんだ早く行けよもう風もおさまってきたし捜しに行くなら早く行けって
ナオトは？
ナオトは一緒に来てくれないの？
わざわざ探しに行かなくても飯の時間には帰ってくるだろどーせ
俺はもう帰ってフロ入って寝たい

ナオトのばか!!
ばかばか
ばーか!!
お…
おまえな〜〜〜〜

俺に対してだけ・・・
どーしてそうなんだ!!?
許さん!!
ばっ
つっ
犬か!?
おまえはペットの犬なのか!!?
家族の中で一番立場の弱いやつがわかるってあれか!!?
他のみんなの前じゃあんなにいい子なのに……!!
きゅうん?

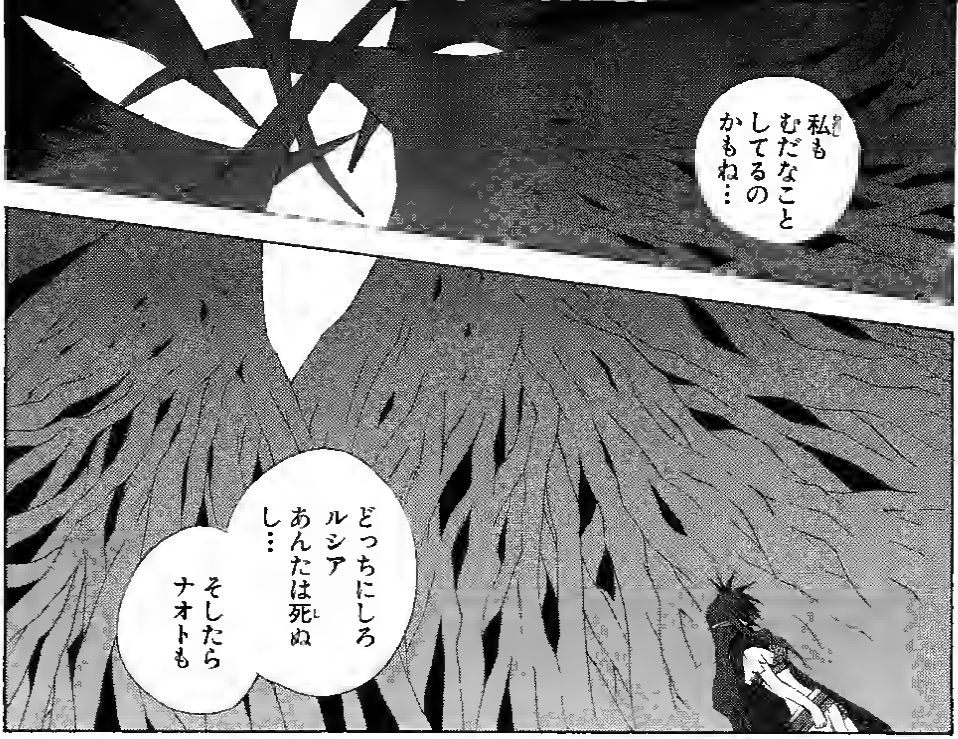
今日からポチって呼ぶぞ!!
ビシィ
命名ポチ
わはははは

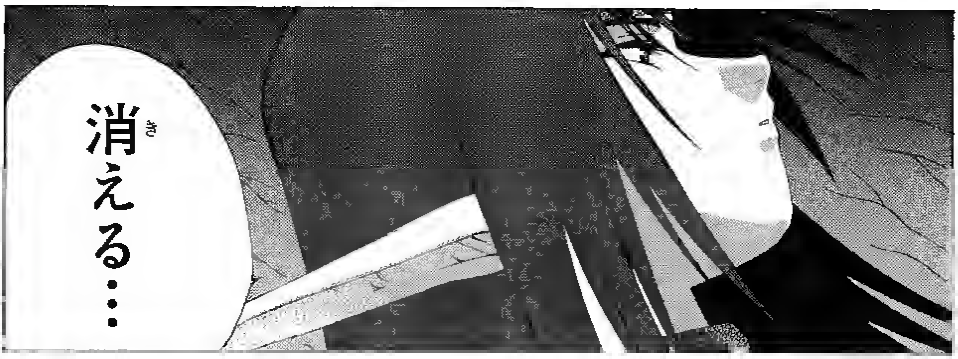

は……
……
……?

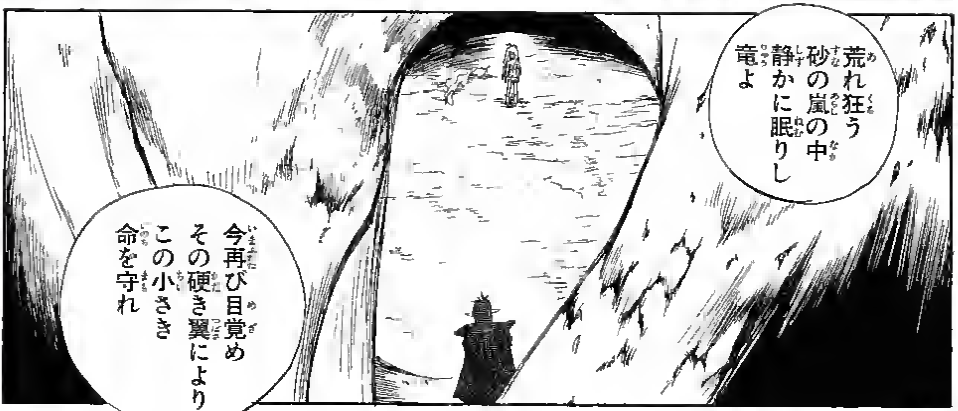
う…ッ
…家族…

なッ
泣きまねはナシだぞ…!?
だまされんぞ
僕たち家族なんだって…思ってる
みんなだから…
ユーロ…?
だから…
いなくなっちゃやだ
ふぇぇ
おおい泣くな
なんなんだにぃ
おろおろ

わかった!!
一緒に捜す!
俺も捜すから!
泣くな!!
なっ!?
……
!
キュ!!
トク
……
すぐ
見つかるって
砂嵐だって
もうやむしさ
…
わかってる…
ここから
いなくなるのは
俺

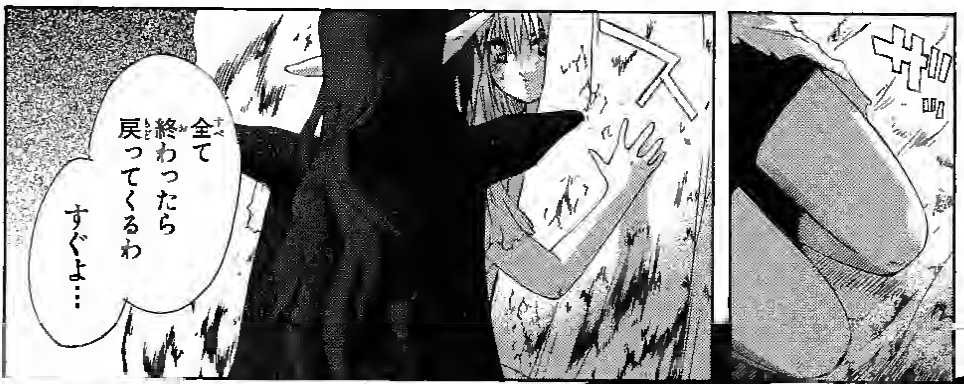

私も
むだなこと
してるの
かもね…
どっちにしろ
ルシア
あんたは死ぬ
し…
そしたら
ナオトも


消える…


荒れ狂う
砂の嵐の中
静かに眠りし
竜よ
今再び目覚め
その硬き翼により
この小さき
命を守れ

ギュオオオオ
巨大だった竜がどんどん小さくなってく…？
！
じゃあ
！
カミュー！

カミュー!!


全て
終わったら
戻ってくるわ
すぐよ…

ルシア
今すぐ
ナオトを
殺せば…
あと
数ヶ月くらいは
生きることが
できる
聞いて
ルシア
私が
ナオトを
殺すのはね…
カミュー?

あんたと
少しでも長く
一緒にいたい
からよ
ルシア
私は…
あんたを
死なせたく
ない

私がナオトを
殺して帰ってきたら
あの少年に関わった
者全てに
あんたがあの少年を
召喚したあの日から
今日までの間のこと
あの少年との
記憶を封印する
術をかけるわ
たとえ
夢の中の出来事として
あの少年のことを
思い出すことはあっても
それ以上の
特別な感情を
思い出すことは
もうなくなるわ…

ナオトと
出会ってからのことは
全て
夢物語となる

でも
きっと俺は
現実世界に帰って

〝ああ
やっぱり夢だったんだ〟

って
そう思うに
ちがいないんだ

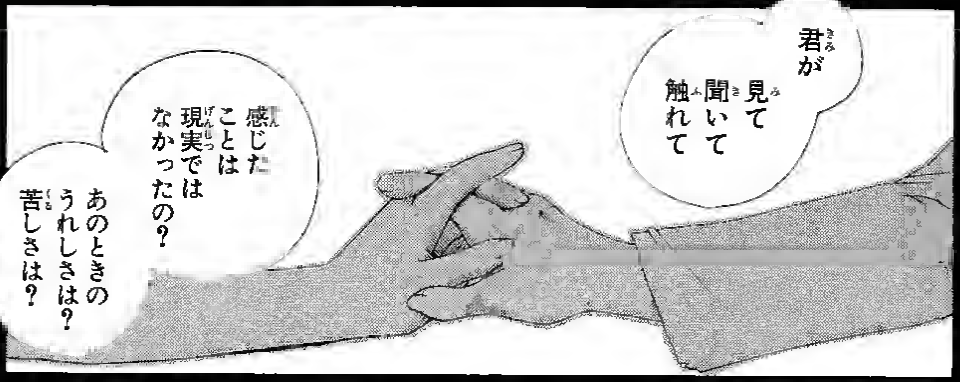
何年か前
ロータスやイブと
過ごしたときを
忘れてしまっていた
ように…

忘れちゃったの？
僕らの能力
おまえ…
時空竜…
この世界をただの夢で終わらせるつもりかい？

心で思ったことがそのまま現実となる
僕ら時空を司る者のこの世界においては神としての力
だから…それこそこの世界が俺の夢の中の世界だってことの証拠なんじゃないのか？
こんなでたらめな能力…
それとな！おまえ！
ミイ！
？
その姿はやめろ!!俺の記憶からひっぱり出してきやがってこら
あーちさとちゃん♪（小学生）かわいいでしょ
ちさとはそんな目ェ細くないぞ！
だいたいおまえ！今度オルゴスに来るのは100年後♪とか言ってなかったか!?
細かいことは気にしない♪

おまえこそなあ！
俺の脳みそが勝手につくりあげてる幻影なのかもしれないんだからな!!
じゃあきくけど
ああなんだ？
君の言う〝現実〟って何？

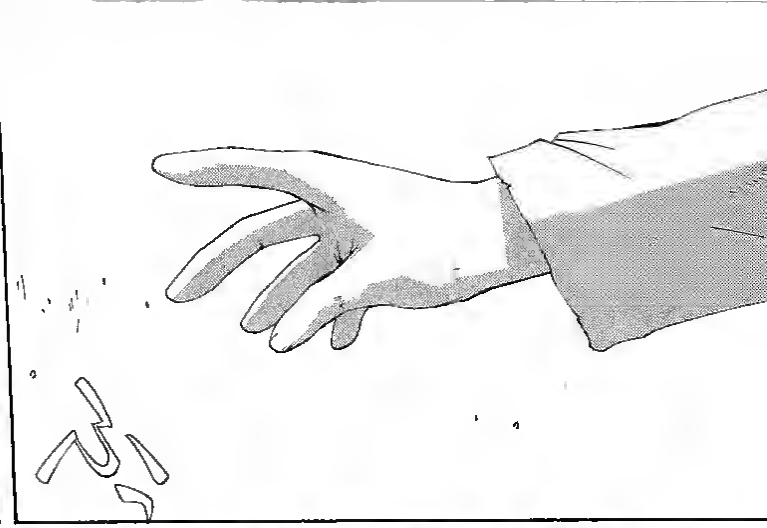
君の存在を無視して勝手にすすんでいく世界のこと？
な…
何かを願うことすらあきらめて生きていかなきゃならない世界のこと？


君が見て聞いて触れて
感じたことは現実ではなかったの？
あのときのうれしさは？苦しさは？

…でもちさとちゃんのいる世界に戻りたいなら…
…ルシア!?
君がほんとうにそうしたいのならしょうがないよね…
方法は簡単だよ

そう
方法はいたって
シンプル♪
この世界で
生きることを
あきらめちゃえば
いいんだ
戦わず
おとなしく
殺され
な

消えた…
ナオト？



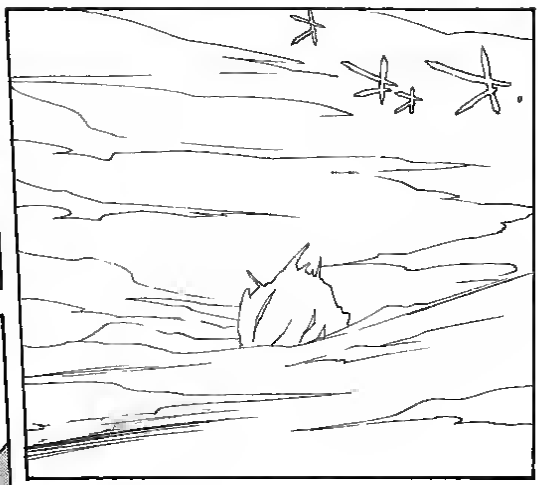
……

ナオト
誰か
くる…
？
ちょっと
それ貸せ
わッ
この感じ…
「カミューには
気をつけろ」
まさか…
カミュー
…？

カミュー！
カミューもルシアを捜しに来たの？
ええ…
ルシアはこの少し先にいるわ 安心なさい 私の竜が守ってる
ホント！
……
ドクン ドクン
ユーロ ルシアのところへ先に行っててくれないかしら
え…？
でも
私 ちょっとナオトに話があるの…
来た
ドドドドド
ごめんなユーロ さっきは…最後の別れみたいな会話になっちゃったけどさ
何も心配することないよ 早く行きな
え…
うん
うん…

ふう…
やっぱ
やるしか
ないか…
あら
殺気が
わかるのね
無駄な
抵抗はやめて
おとなしくなさい
抵抗すれば
するほど
苦しみが長びく
ことになるわ
一瞬で
終わらせて
あげるから…
もう
いいや
夢だろうが
現実だろうが…
もうどっち
だっていいや
…

おとなしく殺されろだって…？
そうはいくかよ!!



ズズ…

ズ…
……だんだん沈んでいってる…

ズズズ…
もう ひざまで 砂が…
…このまま死ぬの
精霊の声も 今はもう聞こえない…
死ぬのは こわい？
こわくは ないけど
…ただ
ただ？
もっと ずっと 一緒に いたかった 人がいたんだ
レビ イブ ユーロ カミュー…

ナオト…
いいこと教えてあげようか♪
カミューにナオトは殺せないよ♪
ナオトはもうちょっとだけ
この世界で生きることを選択したみたいだ
……

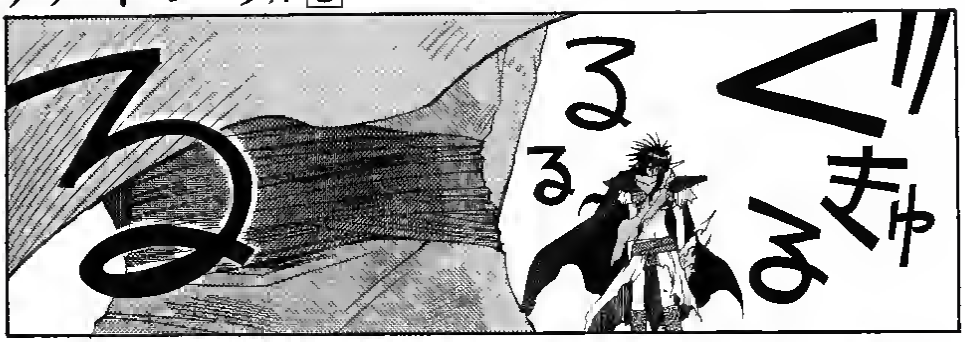
ボア…

おなかすいちゃった…

!!ゃ
Vれっの
……

#14 PARTY

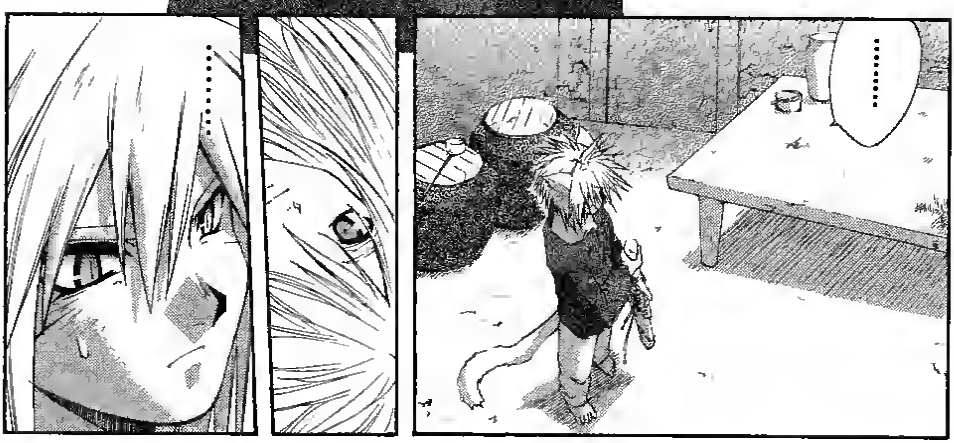
殺す
ナオトを
殺す
一撃で
しとめる…
苦しませないよう
即死させる
一瞬で終わらせる……
あの炎の剣が
体の中心から
外れた一瞬!!
その心臓を
風の槍で
一突きにする!!
風の精霊よ…


ろ
るるるる

ぶはー
ハラヘリに気を…られてるばーいじゃない
……
カミユーの目的は…
なんだ…？俺を殺してどうするつもりなんだ？
なんで俺を殺そうとする？
カミユーの言ったこと…
ルシアが無事ってのは本当みたいだが…
ルシアにダメージがくれば俺にも同じのがくるからな…
なんなんだ…!?
やっぱりカミユーは……
殺戮を好む残酷な種族
エルフィス…!!

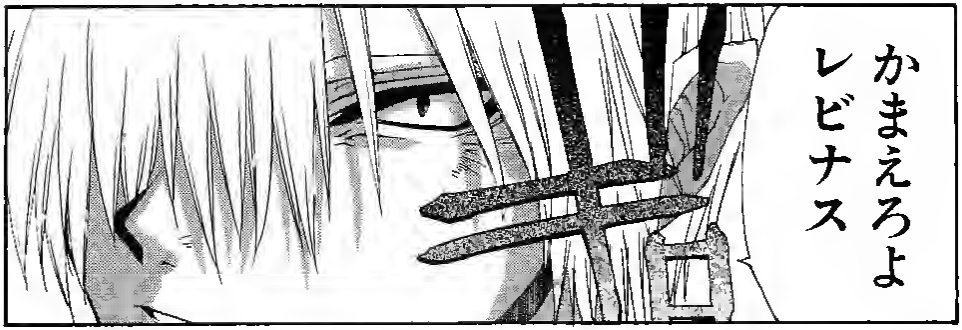
だけど…
カミュー
ちょっと
ききたいん
だけどさ…
……
殺す…!!
なんで
なんだよ…!
カミュー!!
こたえろよ!!
理由は言わない
このまま私を恨んで
この世界から消えなさい
理由をきけばきっと
あなたは自分自身を
恨んでしまうから…

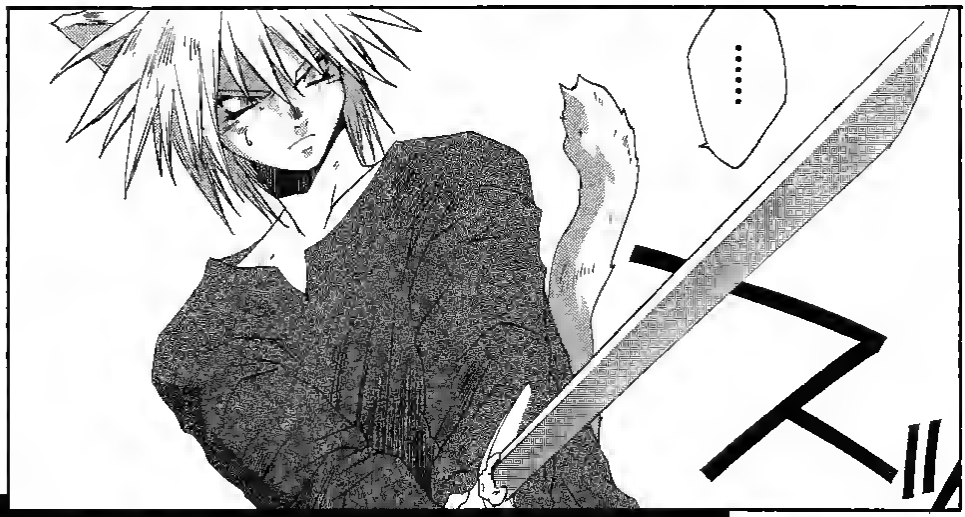
そう
これがきっと
一番(いちばん)いい
終(お)わり方(かた)



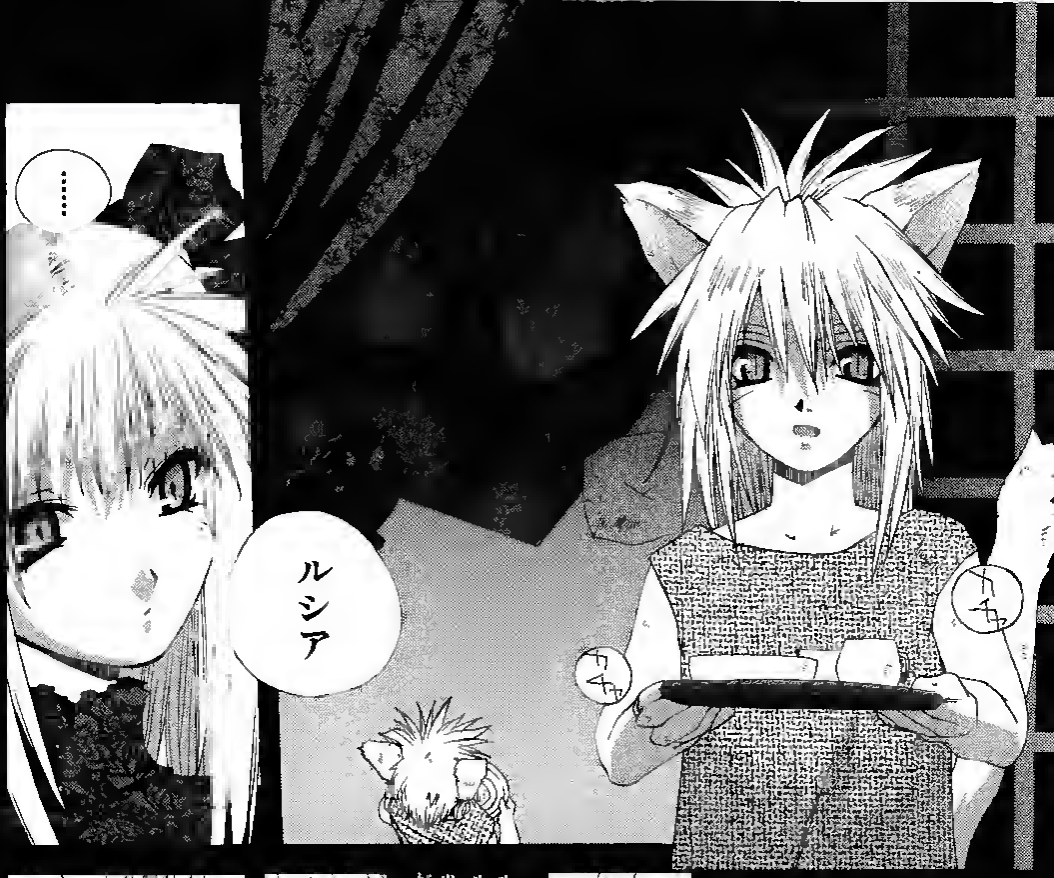
ルシアの死が近い
知ってるな
ああ…
ルカヴィフェイトはもともと寿命が短い種族
そして
その力を使い続ければその命はさらにすり減っていく
カミューが何をしに行ったのかも…
ああ…知ってる…
ルシアがナオトの存在のため自らの命をけずりルカヴィフェイトの力を使っていること
カミューはそれを知っている
カミューはルシアの命を少しでも延ばすためナオトを消す…
もしカミューが失敗した場合は…
俺が…
殺すのか
ロータスの首を落としたみたいにナオトも
……！

ロータスが死にその妹も死ぬ
ナオトもいなくなる
カミューもナオトを消した後どこかへ去るだろう…
俺もおまえを倒した後ユーロを連れて旅に出ようか…
もうデザートコーラルは解散だ
イプシロン…
ロータスの敵をうつか?

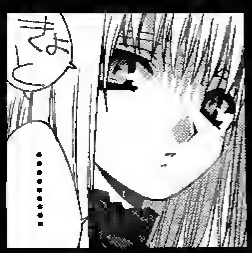

かまえろよ
レビナス


……
スッ

刀を持つのはひさしぶりだ…
あの日以来 6年ぶりか…
6年前——
ほら 食事の時間たよ
から



俺は奴隷として
ルシアは鑑賞用として
俺たちはエルフィスに
飼われていた



ルシアという名の
ルカヴィフェイトの
世話が俺の仕事
だった

俺に任されていた仕事は
そのおとなしい
まるで人形のような少女の
食事や身だしなみから
全て
最期の処理まで……

おまえが来てから
もうすぐ4年か…

おまえがこの館に来たとき6歳だったから…

貴重品種ルカヴィフェイトは
10歳から自我が目覚め
同時にエルフィスをも
しのぐ程の力を
目覚めさせる

もう…

……

今年で10歳なんだな

ルカヴィフェイトは
10歳になるまでに
殺さなければ
ならないとされていた

…レ

…ビ…？

そ そう…

ピキキ

俺の名前ッ もいっかい言ってごらんッ

…

4年間
その日まで
まるで人形の
ような少女
であったけれど
それでも…

あっ

レビ

にこ♥

ああ ルシア!!

ぺろっ

俺は……

明日…
いや 3日後
くらいが
いいかな
うん…
俺の主であり
ルシアの飼い主
この館の主
シルディス
おい
そこの
はい
もうサ
えさは
やんなくて
いいから
3日後
に
最後の
仕事だよ
スタ
スタ
一応
ショーとして
客を呼ぶ
からな
失敗したら
おまえも
殺すからな
……
はい…
この娘を
殺すなんて
俺には…
でも
そうしないと…
俺が殺される
……

ここから
逃げることも
できない…
最後の夜…
すー
すー
何の音だ…!?
部屋に誰か入ってきた…!?
誰だ!?
…だ
ポキ
!!

こんな夜遅くにもうしわけない
スト
……ッ
手荒なことをしてすまない
危害を加えるつもりはないんだ
わぅ
は…刃物…ッ
おと
ゴゴゴ
……
はじめまして僕の名はロータス
ルシ…
!!

目の前に立っていたのは
ルシアによく似た顔立ちの
少し大人びた少年だった

キセキが起きたのだと思った
ルシアの殺される予定の前夜
まさか助けが来るとは…

それが
俺とロータスとの
出会いだった

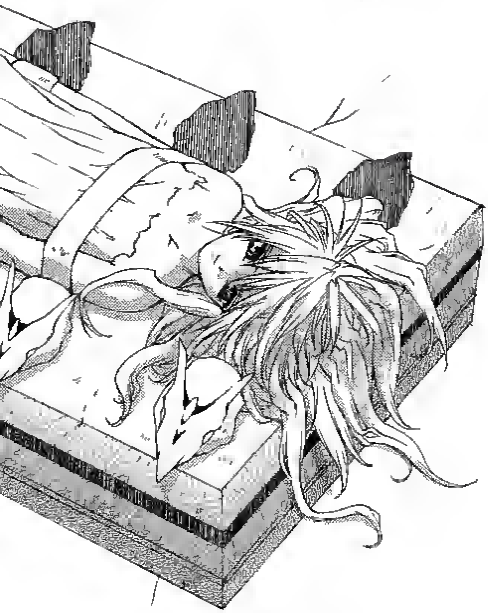
さっそくだがレビ君
この娘の服を脱がせてやってくれ
す…
な…？
僕が妹の身代わりになるのさ
おおい
なんだ？
僕は体が小さいから大丈夫さ
すぐ…なんだ
なッ なにを言ってんだ!!
明日ッ…明日 殺されてしまうんだぞッ!?
俺が…
俺が殺すんだッ…!!

にこ
そんなことは
知っているよ
……
ロータスは
なんらかの方法で
ここの情報は
あらかた
知っていた
いいかい
僕が妹の代わり
になるのは
ただの時間かせぎ
この娘を
カンペキに
逃がすための
のね
長い間
ルシアを助け出す
計画を練り
チャンスを見計らって
いたらしい
僕は
殺される
ギリギリまで
待つ
そんなこと
言ったって
…！

君が殺す役だってことも知ってる
！
んー
むく
レビー？
レビ君
そんときが来たら君も僕といっしょに逃げよう！
ぽん
か簡単に逃げられるわけがない!!
エルフィス相手に…！
…ここから逃げ出せたらまた…
ルシアと暮らせるのか…？
僕はレカウィフェイト完全に覚醒してるね
話くらい聞いたことあるだろう僕達の能力…
だからここから逃げ出すくらいわけないのさ
……
もちろん！
さあ早く服を
外で仲間が待ってるんだ

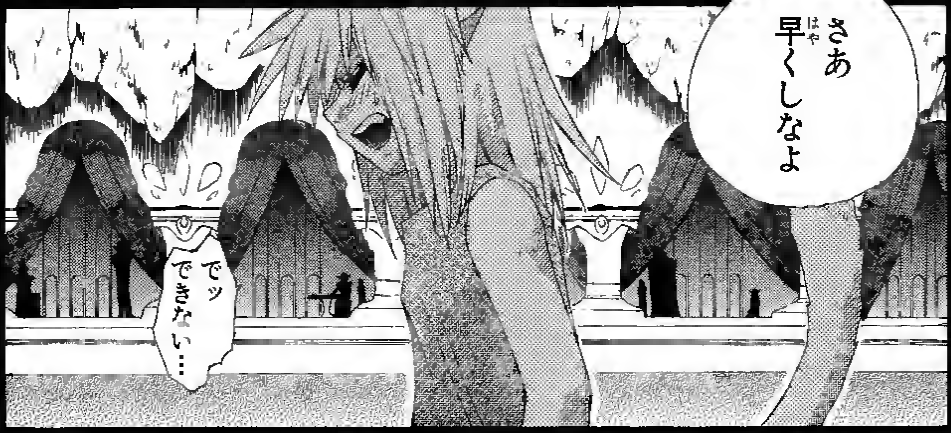
わかった
……
そして次の日
陽が一番高いところ
まで昇ったころ
それは行われた

……



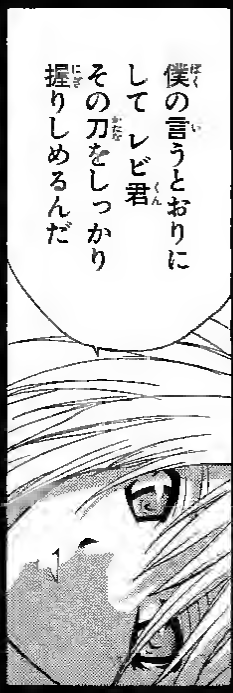
すまない
レビ君

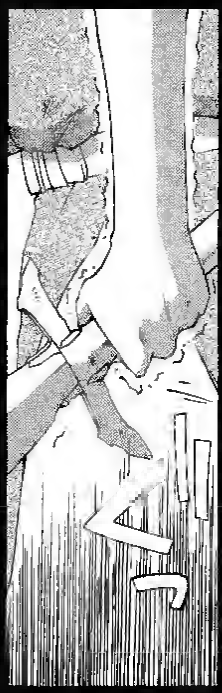
実はサ
僕にはもう
ほとんど力が
残ってないんだ
でも妹を
助けるためには
これしかないんだ
協力してくれて
感謝している
できれば
スパッと一息で
お願いしたいんだけど…
君人を
殺したことは
……
ガシャンガシャン
ガシャンガシャン
そうか
……
いっしょに
逃げるって…
約束…
したじゃないかよ
…
こいつ…
最初から死ぬ気で…
すまな
かった…
うそを
ついて…
本当に…
なにも
気にすることは
ないのさ
どうせ
僕はもう
寿命が
なかったんだ
せいぜい生きて
あと一カ月って
とこだったかな…

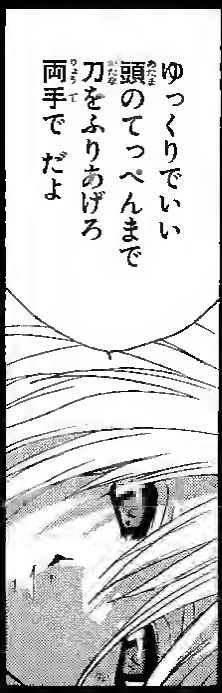

さあ
早くしなよ
でッ
できない…

ぼー
でないと君
あのエルフィスに
殺されて
しまうよ

君はさ
まっすぐで
いいやつだ
目を見れば
わかるんだ
今まで妹の
ゆんどうを
見てくれて
ありがとう


僕の言うとおりに
して レビ君
その刀をしっかり
握りしめるんだ

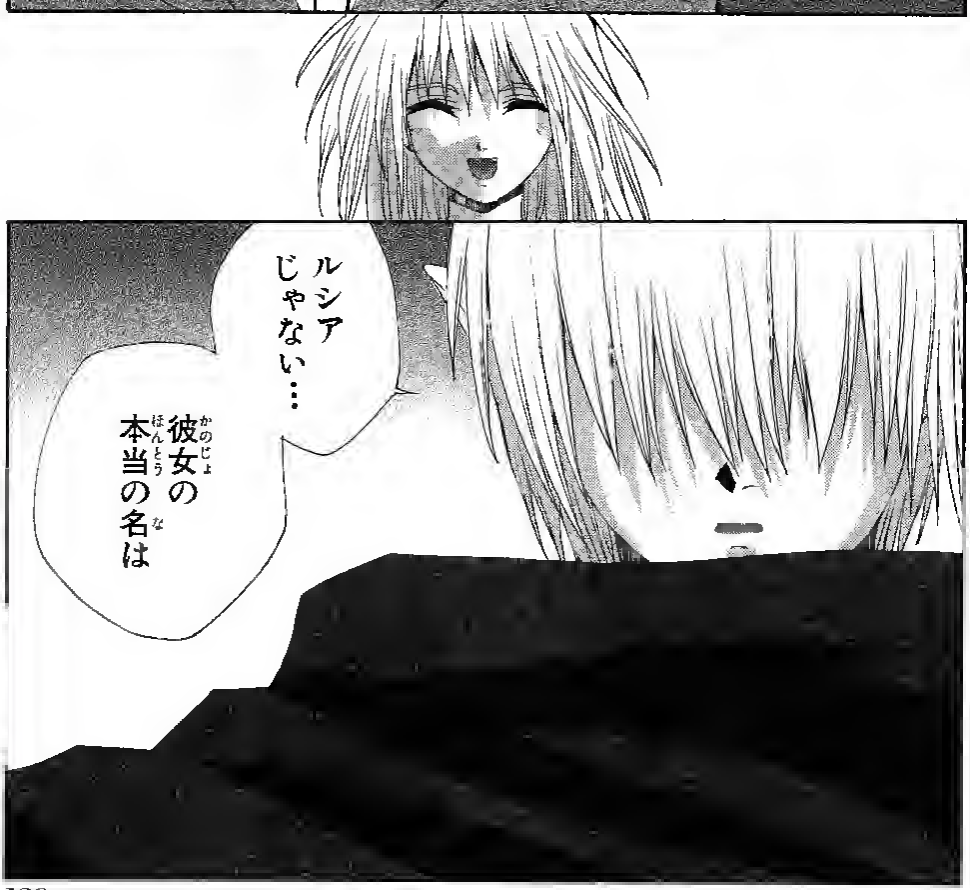



ゆっくりでいい
頭のてっぺんまで
刀をふりあげろ
両手で だよ

……
いいんだ

これでいいんだ……!!
ルシアを殺さずに
すんだのだから…!!
そうだそしたら
いっきにふりおろす
うわああああ!!
その後の記憶はあいまいで
よく覚えていない

ルシアを
助けるために……
しょうがないこと
なんだ……!!


ルシア
じゃない…
彼女の
本当の名は

ああ…
僕たちに与えられた
時間はすごく
短かすぎたけれど…
どうか君は…
精一杯幸せに生きて
ほしいんだ
僕の愛しい妹…

コー…

ラ…

ル…

思い出した…
今わかった…
コーラル
このデザート
コーラルは…

ロータスが妹のことを想って
名付けたものだったんだ――

!!
は…
速い!!
くッ…

ばっ
ビュ…
だめだ…ッ
剣じゃこいつに…
勝てない!!

ばっ
ダッ
早く行かなきゃ…!!
行かせない!!
バシッ
し…
な…!?
水…!?
いや……
幻覚…?
しまッ…

…まだ
ロータスとの
約束が
残っている…

だからまだ…
終わるわけには
いかないんだ

俺たち(デザートコール)は

知ってるさ…
殺すのならもっと早くにやっていたはずだ
おまえはナオトを殺さない
イブ…
殺すわけないだろうが
仲間なんだから

フォー
カミューはたおすべき敵エルフィス…!?
…たとえそうだとしても…!
俺たちは……
カミュー!!
やっぱり俺…ッ
ば!!
心臓…

仲間……
!!
ナオト…!!
どっ
ナオトが
……!!

#15 GOD

ドクッ
う…
ドクッ
外した…

カミュー…
仲間だと思ってたのは俺だけだったのかよ…
はあ…
勝手に信じた俺が悪かった…
やっぱり戦うしかないんだ…
相手はカミューだぞ…かなうわけが…
いや 今の俺なら…!
前の…逃げてばっかりだった俺とはちがうんだ…!!
相手は俺を殺そうとする敵 エルフィス…!!
全力で倒す!!
私が外すなんて…
どうして…

うおおおおっ
私……
ためらっている……？
偉大なる炎の精霊サラムドより授かりし力…
我が心に隠れし炎の種よ
はッ
ふんッ下手な剣…！
!?
今ここに目覚め…

!!
我が前の敵を…
風の精霊よッ…
ダメ!! 間にあわない…!!
滅せ…!!
ま…
!!!
まさか
ナオトが
…

うおおおおお!!
ここまで成長しているなんて…!!
ナオトごときに…
この私が…
!?
!
この砂漠に潜む無限の砂の精霊よ
その上を荒らす異界の者の足を捕らえ影を縛れ!!

!!
動けない!!
ホホホホホ!!
剣のあつかいも術の心得もろくに知らないくせに!!
私と対等に勝負しようなんて一千年早いのよ!!
早く倒さなきゃ…これ以上ムダにルシアの力を使わせるわけにはいかないし…!
かといって下手な攻撃はルシアにもダメージがいってしまう…
一撃で決めなきゃいけない…!!
次で終わらせる!!
偉大なる炎の精霊サラムドよ!!
この地に集いし荒れ狂う嵐の精霊たちよ!!
でも俺が勝つ!!!

ボーン

ロータスと
同じように
その妹
コーラルも…

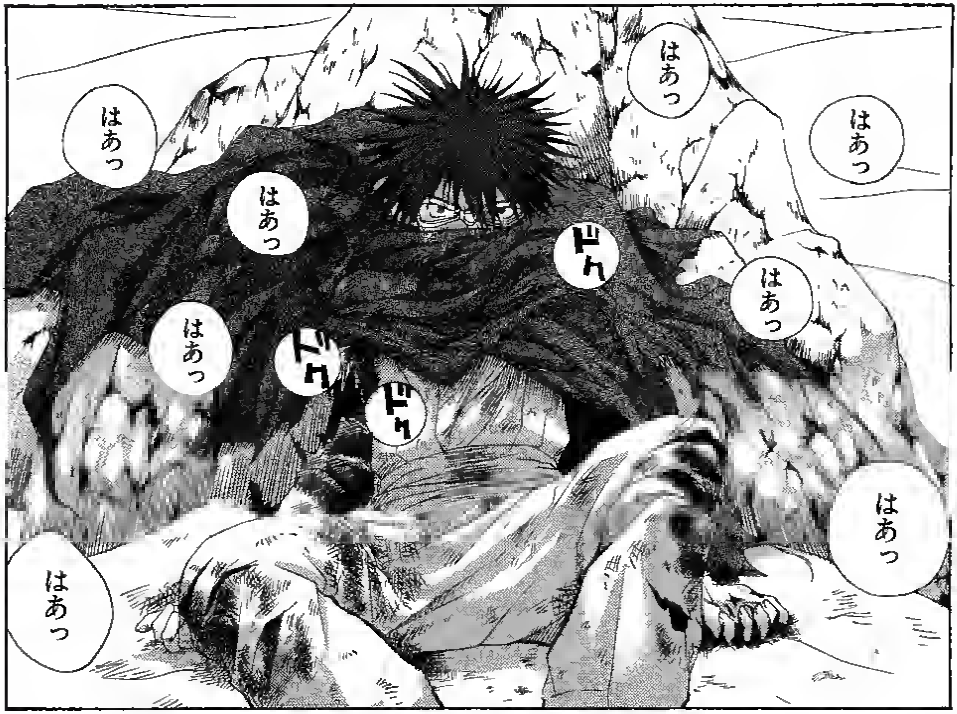
ナオトを
召喚する
ことは予想
していた…

ナオトがこの世界に出現したのは偶然じゃない……

オルゴスの根…？
くずれていく…
たとえコーラルの命が尽きるのと同時であったとしても…
おまえは知らないだろうけど…
？
その時はもう近い…
昔のナオトはそりゃすごい化物みたいなやつだったんだぜ
あとはナオトの…あのころの記憶が完全になるのを待つだけだ
……
そうすればきっとナオトはかつての力をとり戻すはず…

いったい…
ナオトは何者なんだ…？
早く思いだせナオト…
俺とおまえとロータスと……3人でいっしょに生きていたころの心憶……
全てはロータスがナオトをこの世界に召喚したことから始まったんだ……
ゴゴゴ
！
み…水の精霊ウォート…

消えた…
コーラルを探してるんだ…
……
！
地面が…
ロータスの果たせなかった想いをコーラルはうけついでいる
その想いを果たすには…
ナオトが必要なのさ
ロータスの想い……？


はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
ドン
ドン
ドン

はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
はあっ
ドン
ドン
ドン

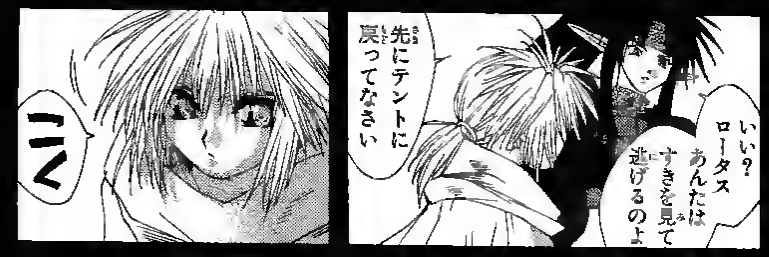
く…
ううう
……
はあ
う…
はあ
う…
…カ
まだ…生きてこの世界に存在し続けているの…
しぶとい やつ……!!
さあ 今 とどめをさしてあげるわ…
もとの世界にお帰りなさい
……なにをためらっているの
……
さっきだって…
最初の一撃…あれを外さなければこんなに力を無駄に消耗することもなかった…
カミュー!!

……
あの子の召喚獣…
カミュー！
カミュー！
ロータス
めずらしい髪の色が気に入って拾ってきたサンドダストの子供
僕に召喚を教えろ!!
は？
教えろ!!
あんたねえ…
それが人にものを頼む態度かよロータス

教えてください！
お願いします！
ペコ
あらスナオ…
でもダーメ！
オラとっとと飯の準備せい！
えぇ～～～～～～
私たちは二人で旅をしながら暮らしていた……
昔…
お願い！
じゃあじゃあ教えてくれなくていいから一回でいいから召喚見せて！
カミュー！
ダメダメ！
あのねえあんたみたいな未熟者が召喚なんてしたら逆に喰われちゃうんだから！
毎日家事も術の修業も剣の修業もがんばるから～!!
こんなにお願いしてもダメ？
……

あんたはじゅ―ぶん
よ～やってくれてるわよ
家事も修業も…
知ってるのよ…
あなたは
ルカヴィフェイト
すごい力を
隠し持っている
こと……
そうだ！
肩もんで
あげる！
だから
お願い～
おいで
ロータス
カミュ？
あんたはもう
これ以上強く
ならなくていいの
なんか
あったら
私が…
守って
あげるから
……
だから
ずっとそばに
いて…

…でもねカミュー
たとえあなたが教えてくれなくてもきっと…
僕はたぶんついてしまうと思うよ
そういう運命に…
……
この子は…
ズズズ…
いったい…何を召喚するつもり……
この世界全部
壊しちゃうような神を
ちっ
やっかいなのに囲まれちゃったわね…



ロータスが
召喚を教えてくれと
言い出した日から
使うのを避けていた
召喚…

その召喚の術を
使ったその日に

どこなのよー？
返事くらいしなさーい？
そうだ！
今日は私がご飯つくってあげるわ！
こたえなさいよ…
お願いだから…
ロータス…
ロータスは私の前から姿を消した…
あんたの好きなのつくってあげる！
ほら なにがいいの？ロータス！
こたえなさいな！

……
なんで…
今になって
こんな事
思い出す
……？
今はナオトを殺すことだけ考えろのよ

……
ロータス…
!?
〝この世界全部
壊しちゃうような神〟
…か
はは…
心を
読んだわ
ね…
そんな
能力も…
……
最近ずっと
混乱してるんだ
いろんな情報が
頭にわきあがって
流れこんで…
外からも
内からも
俺の昔の…
この世界でも
欠けた記憶を
埋めていく
あと
もう少し
…
同時に
力も…
もう
少しで
完全に
なる…
……
でもカミュー
サラムダラの村で
逃げてばかりじゃ
だめだって……
強くなれって…
教えてくれたのは
あんただぜ
あんたは…
あんたは弱いままで
よかったのに…
強くなんかならず…
そうすれば
こんなことには
ならなかった
のよ…

あんたが俺を殺そうとする理由――
わかったずっと…知ってたんだけど今…
やっと思い出した
ごめんカミュー
ごめんな…
ずっとそばにいてあげられなくてごめん…
ごめん…

俺 あんたの大事な人
大事だった人 二人の命を
喰ってここにいるんだ
ルシア…
ロータス…
全部
知っている
のね…
全部
知った上で
あんたは…

全部
知ってる…
ここに
いるんだ
知ってて
俺は
それでも
俺は
生きるために
生きる
わかったよ
サラムド…
俺がここに
いる意味
あ…
力が…
ナオトの力が
解放される…

う……!!!
……ッ
地面が……ッ
こんな……
こんなことって……
どーいう術なのよッ

!!?
まだそんな力が残って…!?
くッ
!
うあああああ!!
まさかッ
世界を全部壊しちゃうような

神(かみ)……
ああああッ!!

すっかり元の砂漠…
嵐もやんでる…
ロータスの果たせなかった想い…
ざく
ざく
それは
この世界の破滅…
そしてナオトは時空竜の化身つまりこの世界における神としての存在
神…？
水の精霊ウォートの気配をたどっていく
きっとコーラルとナオトのもとにたどりつくはずだ
……
ざく
ざく
ざく
いそがなくていいのか？
……
あいかわらずマイペースなやつ…
……
ざく
ざく
ざく

はあっ
はあっ
ミムケン
ミムケン
ミムケン
いったいどうなったんだ…
意識が…とぎれ…る…
はあ…
ダメだッここで気を失っちゃ…
そうだ俺はカミューをたおした……

……
！
ザラ
コンクリートの地面…
……
なんだ…
また おまえか…
さあ ナオトくん 立って
いいところ 連れてって あげるよ♪
いいところ……？
そう この砂漠で 唯一 きれいな花の 咲く場所へ…
ザラ
さあ 早く♪
今度は 見失っちゃだめだよ
え…
あ… これ… 夢で…

ぐい
……
行かなきゃ…

今度は絶対
見失わない!!
ズズ…
…
鳴ってる
……
私を
捉してる
……?
ポ

わッ
コポ
ポ
？
水が…
!!
ぽぽぽ

待ってろルシア！
今行くから!!
はっ
はっ
ドクッ
ドクッ
ナオト!!
早く来て!!

!!?
!!
み…
水の中!?

いた…
あそこだ…
水の精霊ウォート…
……
いよいよだな…

デザート・コーラル3　おわり

デザート・コーラル ③

2003年 8 月10日 初版発行

■著 者
村山 渉
©Wataru Murayama 2003
■発行人
保坂嘉弘

■発行所
株式会社マッグガーデン

〒101-8434 東京都千代田区神田神保町2-1 岩波神保町 ビル6F
(編集) TEL:03-3515-3872 FAX:03 3262-5557
(営業) TEL:03-3515-3871 FAX:03-3262-3436
企画プロデュース スクウェア・エニックス

■印刷所
株式会社廣済堂

■装 幀
VORARE inc.

初出／月刊コミックブレイド03年2月号～6月号

無断転載 上演 上映 放送を禁じます。
乱丁 落丁本はお取り替えいたします。
但し古書店で購入したものはお取り替えできません。
定価は表紙カバーに表示してあります。

ISBN4-901926-70-5 C9979
Printed in japan

本作品はフィクションです。実在の人物 団体 事件等には一切関係ありません。

DESERT CORAL ③ Wataru Murayama